

上田小学校 第 4 回コミュニティ・スクール協議会 報告書

- 1 開催日時 令和 7 年 1 2 月 1 0 日（水） 1 4 : 3 0 ~ 1 6 : 4 5
- 2 場 所 会議室
- 3 参加者 亘保 明美、高安 勝美、佐久本 広志、金城 英樹
仲程 一、吉濱 智也、高安 恵、花城 沙織、野崎 俊彦、
小美野 夏代、大城 仁美、新垣 安隆、本村 真樹人、佐藤 竜太、
- 4 会議内容
 - (1) 話し合いの内容
 - ・ 保護者への引き渡し訓練に参加しての改善点
 - ・ 創立 80 周年事業の進捗確認
 - ・ 視察研修（屋我地ひるぎ学園）報告
 - (2) 決定事項、役割分担、今後の方向性（学校運営への反映に向けて）等
 - 【引き渡し訓練についてのご意見】
 - ・ 運動場での引き渡しは、外部放送設備を強化したい。スピーカーが遠く全体に聞こえづらかった。ハンドマイクでも良かった。
 - ・ 担任はビブスを着ると目立つので保護者と区別しやすい。
 - ・ 日曜授業参観等を利用して、年に一度は行った方が良い。
 - ・ 親が迎えに来れなかった時の対応などについても、今後は市と協議してマニュアル等を作成したい。
 - ・ クラス表示が柔らかいので、もう少し固めにした方がよい。学級旗があれば動きやすい。
 - 【創立 8 0 周年事業について】
 - ・ 道路使用の許可については年度内にできる予定
 - ・ 看板の設置は、1 / 1 0 ~ 1 / 2 5 設置予定
 - ・ 保護者の沿道への誘導は計画案を作成して周知する。来賓は、学校に案内してパレードに参加してもらう。
 - ・ 式典の場所はふるじま公園から運動場へ変更する。雨天の場合は体育館で児童と関係者のみ参加。
 - ・ 式典の式順に実行委員長あいさつと感謝状の授与を入れる。記念品のテントは当日立てておき、PTA からの記念品も目録ではなく実物を贈る。
 - ・ 1 月の第 2 週目あたりに最終確認のための実行委員会を計画する。
 - 【屋我地ひるぎ学園視察研修報告】
 - ・ 別紙参照
 - (3) その他の事項
 - ・ 1 2 月 1 2 日（金）に PTA で 1 8 : 3 0 ~ 地域の見回りを実施する。
- 5 次回予定 令和 8 年 2 月 1 9 日（木） 1 5 : 3 0 ~ 1 6 : 4 5

令和 7年度

※リーダーはサインOK

		氏名	宜保 明美		
研修名	令和7年度豊見城市コミュニティスクール委員研修会		交通手段 ※どちらかに○	自家用車	乗り合い
主催	豊見城市教育委員会		場所	名護市教育委員会・屋我地ひるぎ学園	
研修日	令和 7 年 10 月 14 日～ 月 日 (9 : 00 ~ 17 : 00)				
*研修の目的					
令和6年度より、市内全小中学校に導入した「コミュニティスクール」について					
「コミュニティスクール」の概要やその効果、取り組みについて理解を深めるとともに					
先進的に取り組んでいる名護市の実践を視察することで今後の推進の参考にする					
することを目的とする					
①名護市教育委員会の状況の説明会・・・名護市役所にて					
*名護市教育委員会基本理念(学びに向かい、つながり、しなやかに未来を拓く)					
名護市CSが目指す方向・・・つなぐ(導入期) 高める(充実期) 拓く(深化期)					
● 学校運営協議会を通して					
「地域でどのような子供たちに育てるか」という目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と					
一体となって未来の創り手となる子供たちの生きる力を育成していく。					
● CSによって期待される効果～子どもへの効果として					
①多様な体験や人との関わりの中で、社会性が育まれる					
②多様な視点を取り入れ、豊かな学びが得られる					
③地域の人から褒められることで、学習意欲が高まる					
④地域の人と学ぶことで、地域への愛着が芽生える					
【感想】					
資料と説明を聞いて感じたことは「学校における地域貢献活動」が盛んに行われている					
印象を受けた。地域・企業も主体となり住んでいる場所を良くするという意識が高いように					
思うことと、子ども達のコミュニケーション能力を高める為、地域の人と関わる場所や場面が					
多いことで地域への理解・関心・愛着が深まる様な気がした。CS委員として行政との関わり					
方等、参考になり学べる研修でした					

***屋我地ひろぎ学園視察研修**

『学校教育目標』 自ら学び つながり 未来を拓く 屋我地っ子

特色ある教育活動～9年間の系統的・継続的な学び

小中一貫した生徒指導の推進・学校教育の充実を図り、よりよい地域社会の創造を目指す(学校・家庭・地域の連携・協働)

小中校の一貫性のひろぎ学園は9年生で前期(1.2.3.4学年)中期(5.6.7学年)後期(8.9年)で小中一貫した生徒指導の推進

***生徒指導の4つのポイントを生かした取り組み・・・「時を守り、場を清め、礼を正す」**

● 学校運営協議会の「基本理念」

地域に誇りと愛着を持ち、たくましく生き抜く屋我地っ子の育成

● 「身につけさせたい力」

主体的・協働的に課題を解決する力

右の資料はコミュニティスペースゆくりのつながるプロジェクト

地域・家庭・学校がつながるひろぎCSネットのマップです。これだけの団体や組織と連携を取りながらプロジェクトを展開している名護市の現状に今後、豊見城市が進めていく上で屋我地ひろぎ学園の事例は参考になるのではと思った

*** 成果**

コミュニケーション能力の向上

学習生活態度が変わった。

組織・活動の見える化⇒共有

こどもの立場～自己肯定感

大人の立場～こどもとのふれあい⇒達成感

*** 課題**

ひろぎ学園の弱みとして7割が島外という事で

地域の関わりの継続が難しいとの事だった

やがじっ子を中心とした学びのカタチ
コミュニティスペース『ゆくり』
放課後の時間を中心に…。



※この研修報告書は、両面になっています。